

農業経営基盤強化促進法第18条第1項の規定に基づき、公表します。

奥州市長 倉成 淳

市町村名 (市町村コード)	岩手県奥州市 03215	
地域名 (農林業センサスにおける 地域内農業集落名)	胆沢 古道下要害地区 (要害、古道下)	
協議の結果を取りまとめた年月日	令和7年6月30日 (第2回)	

注1:「地域名」欄には、協議の場が設けられた区域を記載し、農林業センサスの農業集落名を記載してください。

注2:「協議の結果を取りまとめた年月日」欄には、取りまとめが行われた協議の回数を記載してください。

1 地域における農業の将来の在り方

(1) 地域農業の現状及び課題

- ・基礎整備がおおむね終了し今は暗渠排水工事が行われている。
- ・基盤整備に入らなかった農地の、今後の管理が課題である。
- ・個人での耕作は年々少なくなり、法人または、法人化した組織に農地を預ける人が増えている。
- ・法人の構成員も高齢化しており、今後の法人で働く人の担い手確保が課題である。
- ・川沿いは石が多く、法人で石拾いをしており、とても苦労している。また、耕作放棄地もある。
- ・川から害獣が来る。

【地域の基礎的データ】

- ・法人:1法人、個人担い手:3経営体
- ・主な生産品目…水稻、大豆、ピーマン、じゃがいも など

(2) 地域における農業の将来の在り方

- ・ほ場整備実施済の区域並びに施工中の区域については、将来も農業を継続していく。
- ・法人又は後継者が農地を耕作していく。
- ・法人で新しい機械を導入していくが、使い方や設定が難しいので、若い担い手確保をめざしていく。
- ・基盤整備に入らなかったところをどうして行くか、今後も検討していく。
- ・若い担い手が少ないため、一人でも多く確保したい。

2 農業上の利用が行われる農用地等の区域

(1) 地域の概要

区域内の農用地等面積	119.9 ha
うち農業上の利用が行われる農用地等の区域の農用地等面積	119.9 ha
(うち保全・管理等が行われる区域の農用地等面積)【任意記載事項】	ha

(2) 農業上の利用が行われる農用地等の区域の考え方

- ・農振農用地を含む基盤整備事業の実施済及び実施中の区域を、農業上の利用が行われる農用地等の区域とする。
- ・川沿いや住宅地付近、基盤整備事業に入らなかった農地については転用や農地以外の活用方法を考えていく。

注:区域内の農用地等面積は、農業委員会の農地台帳等の面積に基づき記載してください。

3 農業の将来の在り方に向けた農用地の効率的かつ総合的な利用を図るために必要な事項

(1) 農用地の集積、集約化の方針
・基盤整備実施済地域については、促進計画の目標に沿った集積・集約化を進める。 ・小規模農家等が離農する際には、担い手等と十分な話し合いを進め、農作業の効率化につながる農地の集約を進める。
(2) 農地中間管理機構の活用方針
・個別で管理困難となった場合は、農地中間管理機構の契約を主に、農業委員会の小作契約や作業受託なども活用しながら、法人に段階的に農地を集約化する。 ・農業法人化により、若い担い手の雇用促進に向けて収益性をより高めていく必要があるため、積極的に集約と集積を進めていく。
(3) 基盤整備事業への取組方針
・現在、基盤整備事業を実施中である。
(4) 多様な経営体の確保・育成の取組方針
・農業生産法人への集約や集積のほか、農作業受託も積極的に取り組み、法人の雇用環境の向上を図っていく。
(5) 農業協同組合等の農業支援サービス事業者等への農作業委託の活用方針

以下任意記載事項(地域の実情に応じて、必要な事項を選択し、取組方針を記載してください)

☒ ①鳥獣被害防止対策	☒ ②有機・減農薬・減肥料	☒ ③スマート農業	☐ ④輸出	☐ ⑤果樹等
☒ ⑥燃料・資源作物等	☒ ⑦保全・管理等	☐ ⑧農業用施設	☐ ⑨その他	

【選択した上記の取組方針】

①今後、電気柵に取り組む必要がある。下草刈りも必要。
 ②既に取り組んでいる人がいる。
 ③ドローン、田植え機、トラクター使用している。しかし、電波届かないところがある。また、自動給水装置使っているところがある。
 ⑥ヒマワリ油に取り組んでいる女性がいる。大企業が提携してくれるなら取り組みたい。
 ⑦多面的機能保全活動組織の積極的な活動により、土地所有者と担い手が共同で農用地、水路、畦畔、農道等の定期的な点検や維持保全作業等を行い、保全管理に取り組む。